



第22回 長崎大学病院 ICLSコース 報告書



「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」

平成31年2月2日(土)開催

主催:長崎シミュレーション教育研究会

共催:長崎大学病院 外来・救急医療教育室

地域医療支援センター

シミュレーションセンター

救命救急センター

協力:日本光電九州株式会社

コースの目的

本コースは、初期研修医の救命医療における知識と技術の向上を目的として開催した。

ICLSとは

日本救急医学会が主催、または「コース認定」をして行う、医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。心臓血管系の緊急病態のうち、特に「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標とした、実技実習を中心としたコースです。受講者は少人数のグループに分かれて実際に即したシミュレーション実習を繰り返し、約1日をかけて蘇生のために必要な技術や蘇生現場でのチーム医療を身につけます。身につける行動の目標は以下の通りです。

- ・蘇生を始める必要性を判断でき、行動に移すことができる
- ・BLS(一次救命処置)に習熟する
- ・AED(自動体外式除細動器)を安全に操作できる
- ・心停止時の4つの心電図波形を診断できる
- ・除細動の適応を判断できる
- ・電気ショックを安全かつ確実にこなうことができる
- ・状況と自分の技能に応じた気道管理法を選択し実施できる
- ・気道が確実に確保できているかどうかを判断できる
- ・状況に応じて適切な薬剤を適切な方法で投与できる
- ・治療可能な心停止の原因を知り、原因検索を行動にできる

実施結果

受講生10名が当コースを修了し、ICLSアシスタントインストラクターの資格を得た。

また、スタッフ(コースディレクター2名、インストラクター5名、アシスタントインストラクター4名)計11名で指導を行い、2ブースを問題なく運営した。

また、スタッフは医師だけでなく、看護師、救命士、とコメディカルからの参加もあった。

※スタッフ詳細はP.4

<実施内容>

開催日時	平成31年2月2日（土） 9：20～17：00
受講者数	10名
対 象	初期研修医 10名
場 所	長崎大学病院 シミュレーションセンター

<スケジュール>

		グループA	グループB
09:00～09:20	0:20	受 付	
09:20～09:30	0:10	オリエンテーション	
09:30～10:20	0:50	BLS+AED	
10:20～10:30	0:10	休憩・移動	
10:30～11:20	0:50	気道管理	モニター
11:20～11:30	0:10	休憩・移動	
11:30～12:20	0:50	モニター	気道管理
12:20～13:10	0:50	昼 食	
13:10～13:15	0:05	BLS・ALSデモンストレーション	
13:15～14:25	1:10	チーム蘇生	チーム蘇生
		VF/VT	VF/VT
14:25～14:35	0:10	休憩・移動	
14:35～15:20	0:45	non VF/VT	non VF/VT
15:20～15:35	0:15	休 憩	
15:35～16:35	1:00	メガコード	メガコード
16：35～16：45	0:10	移動	
16:45～17:00	0:15	終了式・修了証授与式	

午前：BLS（シミュ1）、気道管理（シミュ1）

インストラクター：山野 修平，○横山 誠
 アシスタント： 村橋 志門，西 真輝

午後：グループ1

○山野 修平，横山 誠，村橋 志門，西 真輝

グループ2

午前：BLS（シミュ2）、モニター（シミュ3）

インストラクター：柴田 英貴，○山口 愛鈴
 アシスタント：田中 栄一，和田 千香子

○柴田 英貴，山口 愛鈴，田中 栄一，和田 千香子

○は、ブースリーダー

○は、ブースリーダー

◆アンケート◆ 受講者の声

- ・チームで動く重要性を実感することができ、
今後ハリーコールが起こった際の役割を理解することができた。
- ・一つ一つの基本動作を繰り返すこと
ほかの人の行動を見ることでうまくフィードバックできた
- ・これまでよりも、積極的にハリーコール対応に参加できる自信が少しついた
- ・CPAの原因がなにか考えようと思った
- ・チーム蘇生の全体的な流れがつかめるようになりました
- ・蘇生を始める必要性や初期対応で人を集めることなどができるようになった。
自信はまだ持っていませんが、受ける前よりも対応できるようになったと思う。
- ・最初よりは声を大きく、人に指示やお互いアドバイスを送りあえるようになったと思います。
- ・BLSに対する苦手意識が改善したように思います。
- ・ハリーコールを恐れない。
- ・スムーズに動けないであろうことはわかっていましたが、チームの人たちに助けてもらえるとは思って
いなかったので少しチーム医療を感じられた気がします。
- ・休日にご指導していただき、ありがとうございました。
- ・今日は貴重なお時間頂きありがとうございました。
- ・丁寧でやさしい指導でとても勉強になりました。
- ・丁寧な指導ありがとうございました。
- ・お休みの中1日ばかりでご指導いただき、ありがとうございました。
- ・分かりやすく教えていただけて勉強になりました。
- ・適切なフィードバックをしてくださったので自分や他の参加者を振り返ることができました。
- ・丁寧にご指導頂きましてとても分かりやすく、有難かったです。
- ・いろいろと教えていただいてありがとうございました。
- ・「直すべきところ」「良いところ」の両方言っただけで心が折れずにすみました。

◆アンケート◆ スタッフの声

1) 受講者の態度・意欲はどうだったか？

- ・態度はよく意識も感じたが、やや元気がなかった。
- ・積極的で、まじめに取り組んだ。
- ・チームで協力して行動できていたと思います。
- ・人によって様々であったが、後半は非常に疲れが見えていた。
- ・まじめに取り組んでいた。2
- ・まじめではあるが、積極性がいまひとつ。
- ・皆さん意欲的でした（フィードバック時の質問が多かったです）
- ・良かったです。少し元気がなかった気がしました。

2) 予備知識（予習含む）はどうだったか？

- ・予習はあまりしていないと感じた。・少し足りないかな？
- ・コース展開するには、十分な知識があった。
- ・勉強内容を実践できていたと思いました。
- ・予習をしている人はいなかったのではないか。
- ・個人差があり、アルゴリズムの理解が不十分であった
- ・流れはOK、細かいところまでは行き届いていない印象
- ・しっかりできていたと思います・予習されていたと思います。

3) ディレクター、インストラクター、アシスタント、チューターの指導はどうだったか？

- ・Excellent
- ・フィードバックの時間を考えて。管理を。
- ・協力的でやりやすかった。・いつも助けて頂いて今日も感謝です。
- ・学びやすい雰囲気を作って成人学習できていた。
- ・指示などの確に出していたと思います。
- ・分からないことに対して教えてくださった。
- ・適切なタイミングで助言していた。・たくさん助けていただいた
- ・よく勉強していた。・良かったですと思います。
- ・積極的。“人形の設定”というような言い方はリアリティが下がるので注意。
- ・分からない所はサポートしていただき、助かりました。3
- ・積極的に自分にできることをやれていたと思う。

4) 今後について、ひとこと

- ・今後も継続してほしい。
- ・また参加します。ありがとうございました。
- ・来年度より市内の済生会病院で勤務になりますが、ぜひ参加させてください。
- ・またインストになって参加したいです。
- ・色々ご配慮いただいたので、動きやすかったです

●改善点●

- ・PMのVT/VFで時間が押してしまったので次回は改善したいと思います。
- ・いつも完璧だと思います。

準備する資機材(3ブース)

資機材名	必要数	備考
ALSシミュレータ、操作用PC	3	
レサシアン	6	
バックバルブマスク	6	
AEDトレーナー	4	フィリップス
気道管理トレーナー	3	
モニター付き除細動器	3	単相性(予備) 1 二相性 2
気道管理ボックス	3	各ブースに1箱ずつ
注射器10ml		
バイトブロック		
吸引チューブ		
口腔エアウエイ		
経鼻エアウエイ		
聴診器		
ポケットマスク		
喉頭鏡ブレード(4.0)		
喉頭鏡柄		
チューブ固定具		
酸素マスク		
酸素カニュラ		
挿管チューブ		
スタイレット		
CO2チェッカー		
テープ		
点滴	2	各ブースに1つずつ
点滴スタンド	3	各ブースに1つずつ
ワゴン	3	
聴診器	3	
アルコール綿	多目	
ホワイトボード	4	
ホワイトボードマーカー4色	12	
ストップウォッチ	6	
メトロノーム	2	
延長コード	4	



長崎大学病院 外来・救急医療教育室
地域医療支援センター、シミュレーションセンター

〒852-8501

電話 (095) 819-7346

長崎市坂本1丁目7番1号

FAX (095) 819-7379